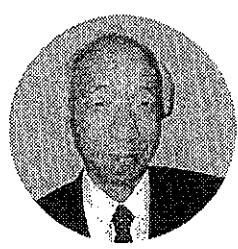


# 中経 論壇

経営支援NPOクラブ理事  
**中谷 兼武**



12月に入るとどうしても2021年を振り返りたくなくなる。コロナ禍の中でも、90歳過ぎてのノーベルもの理学賞の真鍋淑朗博士や最年少で4冠を制した藤井聡大棋士、スポーツ界では、オリンピックで最年少金メダリストの西矢椏選手(13歳)やアメリカンリーグでMVPに輝いた大谷翔平選手などは、今後も多くの日本人の頭に残るだろう。

送った筆者でも想像できる。しかし、多岐に高度化した現在において、個人の鍛錬・努力だけでは、世間をあとと言わせる結果はもたらし得ないだろう。ものづくりでは、4M(Man・Method・Material・Machine)の相乗効果によりものの出来具合、すなわちQCD(品質・原価・納期)が決まる。そして、ものづくりのレベルアップに欠かせないのが人であり、人づくりこそが要である。そのためには良き指導者と良き環境が重要であると筆者は体験的に学んだ。

藤井棋士と大谷選手の活躍と業績は、ご面人のたぐいまれな才能に加えて、大変な鍛錬と努力の結果であること、企業でもものづくり人生を

## ものづくりは4Mの相乗効果で

### 人づくりの原点は才能を伸ばすこと

く。従来と異なり、投打二刀流選手の育成はタブー視されてきたようである。定跡教本とタブレットパソコンを携行し、AI対局の新しい訓練法に励み、従来の定跡とAIの活用で二兎を追い求める藤井少年を、師匠の杉本昌隆八段は、温かく見守り今日の藤井棋士に育てた。指導者の多くは、自分の経験または常道に基づき指導方法を強要しがちであるが、杉本師匠は、人づくりの心得を持った理想的指導者なのだろう。

少年野球の投手は4番バッターが多く、高校野球でも王貞治氏などがそうであったが、プロ野球の世界では「二兎を追うものは一兎をも得ず」の格言通り、

投打二刀流選手の育成はタブー視されてきたようである。しかし、日本ハムの栗山英樹監督は、大谷選手の才能を認め、周囲の圧力に屈せず、タブーの投打二刀流の鍛錬の機会を与えた。大谷選手の基礎づくりに大きく寄与した人づくりの第一人者といえよう。アメリカンリーグのエンジェルズに移籍し、投打二刀流の成長に理解を示した、ジョー・マドン監督の人づくりも素晴らしい。

人づくりの原点は「その人の才能を伸ばす」に尽きるのだが、指導者・育成者は自己の経験や世間の常識にとらわれ、真の人づくりができない場合が多い。今回の藤井棋士と大谷選手の活躍は、常識にとらわれず「二兎を追いかけ二兎をも得る」ことに成功した例であり、人づくりの重要性を改めて認識させてくれた。来年度も、藤井棋士と大谷選手のさらなる活躍を期待するとともに、日本のものづくりにおいても、人を育てて新しい産業を生み出してほしいと願っている。